

高退協ニュース

高知高退協事務局
2005.7.19
No.135

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目11-10
TEL 088-1822-1682
TEL 088-1822-1682
郵便振替口座 01665012111893

自立支援法案反対!

「応益負担」許さない!



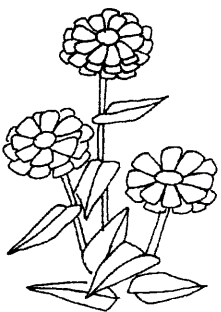
「障害者の生活と権利を守る高知県連絡協議会」(正岡光雄会長)は二十二日、高知市帯屋町で、障害者の重い人ほど利用料負担が重くなる「応益負担」を導入する障害者「自立支援」法案に反対する県民集会・パレードを開き、約五十人が参加しました。雨模様となった高知大丸前デノ集会で正岡会長は「結構な名前の自立支援法です。しかし、すべての障害者に一割の利用料を押し付ける無慈悲な法案です。呼吸障害者の呼吸器にも一割負担がかかり、

空気を吸うにも負担がある。市民のみなさんに訴えて、同法案を廃案にしましょう。そして、障害者が本当に自立できる制度の充実を訴えよう」と、呼びかけました。集会後、参加した視覚や車椅子の障害者や家族、関係者らはパレードに出発。「自立支援法案の廃案」と「障害者福祉の充実を」などの横断幕やプラカードを掲げ、訴えました。(報告・小澤)



活動日誌

- 【5月】
 - 11日(水) 第一回事務局会・役員歓迎会
 - 15日(日) 山の会例会
 - 20日(金) NPT代表報告会
 - 21日(土) 医療・介護・年金等基礎講座
- 【6月】
 - 4日(土) 原水爆禁止高知市集会
 - 5日(日) 山の会例会
 - 8日(水) 第二回事務局会
 - 13日(月) 山原資料室建設委員会
- 【7月】
 - 3日(日) 第51回高知県母親大会
 - 9日(土) 革新懇総会



事務局の新人入りです

よろしくお願ひします
渡辺 正子

38年間の宮仕え(?)の生活から解放され第2の青春を謳歌しようとして2年目になりました。しかし、毎日の生活は……、特に最近には気持だけは前向きでも、実際は(食う・寝る・遊ぶ……)体力・気力の劣化を口実に、それなりに過してききました。

少々ぼんやりしていたそんなある日突然、大先輩のK先生より「高退協の事務局員に……」との誘いをいただきました。何故……?私……?間違いないの……?と思いましたが、私自身はあまりまじめな組合員ではなかったからです。

(いままさら……)と思う気持とツルでさえ恩返しをするのだから……)と考えたり、何より(他にも……)とあれやこれやと逡巡している私を横目に、我が家のパートナ―は「ヒトさまがお声を掛けてくれるうちが……」と言う……が、本音のところは(〇〇元気で留守がよい)程度の軽いノリで支援してくれているつもりらしい。*

核廃絶への決意を新たに

二〇〇五年 原水爆禁止高知市集会」が、去る六月四日、高知市役所前で開かれました。高知市内内七カ所をスタートして平和行進を行い、「核兵器をなくそう」「九条を守れ」などと書いた旗を持ちながら、市民に平和を訴えながら、約二五〇名が参加しました。今年は、広島、長崎に原爆が投下されてから六十年になります。集会では、参加した市民が核廃絶への決意を表明した後、「五月に国連本部で開かれた核拡散防止条約(NPT)再検討会議は、プッシュ・米政権の妨害で任務を果たすことができなかった。核兵器と人類は共存できない。核兵器のない未来へ全力で奮闘しよう」との集会決議を採択しました。(報告 小澤)

※いつもの悪い癖で「まあッ、いかッ」ぐらいの気持(軽率な決断でスママセン)で新人入りとなりました。今までは当然の如く(いつも家にいて楽しく読ませていただくもの)と固く信じて疑わなかった。高退協ニュースもこれからは配達等も含めてぐつと身近なものになりました。当の会は旅行や望年会等楽しい催しも企画されています。又、各クラブ活動も現役の高校生に負けない(?)ぐらい活発に行われているようです。先日はじめて参加した事務局会では、和田会長をはじめ諸先輩のみんながとてもあたたかい雰囲気です。話し合いを進めている様子を感じました。

年金・保険・健康・介護等々……と多くの課題をみんなで協力しながら学び取り組んでゆくことの大切さを思い、その推進組織の一人として、これからは楽しく(カンバラないけどアキラメない)をモットーに生活を充実させてゆきたいと願っています。

老声草

「二銭五厘の旗」

布を裁って、針を持ち縫い物をする。この数十年すつかり遠のいていたが、旗を縫うためにミシンを取り出し、着なくなった服も次々と引っぱり出した。オレンジ色、花柄、縞模様、チェック等々十種類以上の色や模様などから、十センチ二十センチの巾に切り取った。巾五センチ長さ一センチの旗をこのちぐはぐの布切れで縫い合わせて作るためである。バランスよく並べてみる。子どもたちや母の着ていたものを多く使うことにした。

「暮しの手帖」という雑誌をずいぶん長く愛読してきた。すでに五十年は過ぎていた雑誌である。創立者の故花森安治氏が平和と庶民の暮しを守ることに徹底した編集をしてきた優れた本である。その本の今年の春号に「二銭五厘の旗」を掲げようという提案があった。もともと何十年前か前に花森氏が考案し掲げたものをもう一度、今、掲げようと呼びかけたのである。

「二銭五厘」とは第二次大戦中の赤紙一枚の葉書代。この二銭五厘の葉書が命を家族から取りあげ、暮しと平和を脅かした。国の「二銭五厘」に対し、私達の「二銭五厘の旗」は、恐ろしい戦争、平和と命を奪う戦争は「いやだ」とはつきり言う庶民の意思表示である。旗の大小、模様のさまざまの色や大きさは、人々の暮しと命を表わしている。今、各人が布を継ぎ合わせて思い思い自由に旗を作って、それで戦争反対を示そうと言う。私はこれに心から賛同した。

最近ヨーロッパのある国でこのような旗を見かけたとも聞いた。小田実講演「九条を守る」を聞いた後、車中でこの旗「いい提案だ」と話し合ったりもした。また退婦教の安芸支部でも提案があり、二銭五厘の旗は、女性たちの心を動かすものだと感じた。

七人いる孫たちの一人一人の顔を思い浮かべて縫い合わせ、赤い布を命に、みどり色を平和にと考え、最後の仕上げに縫いつけた。母の古い着物の衿布の廻りに囲って、大切な命を守つてと願いを込めた。

この一枚の旗が日本中の女性たちの戦争は「いやだ!」と意志を示す運動の中に広がっていくことを願っている。 山本景子

私の体力づくり (健康法)

正岡光雄

長い教員生活にピリオドを打ち、六十五歳から病院で、パートのマッサージ師をやっているのが、私にとっての体力づくりの、基礎は健康づくりだと、思っている。

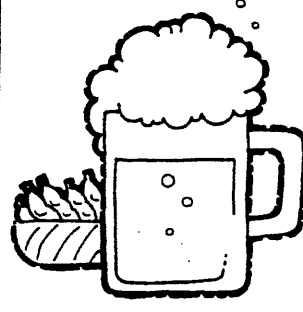
心の健康づくりのために、よく、酒を飲む。仲間が居るほど大酒飲みではない。会議の後は、ほんの一杯(いっぱい)、晩飯抜きの時は、ふんだんに魚と野菜の料理を次々と並べ、大変豊かな気分です。帰りは追手筋辺から越前町のわが家まで、歩いて帰る。だが、超満腹の時はムリである。わが家には、何かと、わめきたてる、おばさんが居るが、帰宅後、即刻、寝入るので、何も聞かない。

私の仕事も体力づくりに大いに貢献している。日曜、祭日以外の毎日、月曜日は三時まで、あとの曜日は十二時まで、マッサージ施術で汗をかき、いい気分になって帰る。患者との話しも大変、愉快である。

登山の会にも入っていたが、障害者運動とやら、また別の運動などで忙しくて、顔を出せなくなったことが残念である。しかし、年に一度でもの登り、大いに汗をかくと、冬、風邪を引かないように思う。

わが家が街に近いことは好都合で、図書館、買い物、英会話など、天気なら、たいてい往復歩く。特にスポーツ、体操の類はやっていない。全く、ごく普通の生活である。「体力づくり」には当たらないかもしれない。朝飯は欠かさず、三食食う。たとえ飲み過ぎの翌朝でも、そして年金は、九〇(歳)まで、貰うつもりだ。

(原文は点字。墨沢・小澤)



短歌

唯ふべし 榊原忠彦

むかしより歯はほめられて来しものを腸手術につく長治療かな

雷蔵の「忠直卿行状記」に満ち足りて、次はサイクリングと本屋へ走る

唯ふべし「孔子の言」とせし小泉の無知を正せし一海先生

(六月三日朝日新聞 中国文学者一海知義) ◆靖国問題「罪を憎んで」発言は不可解



朝な朝な 叶岡淑子

くれないの芍薬に添えさみどりの露たずさえて友訪いくれぬ

ペランダに羽休めたる鳩一羽モーツアルトを汝も聞くらし

朝な朝な窓に見なれし南山の緑まぶしき初夏は来にけり



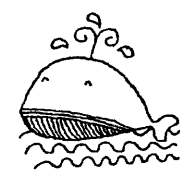
『沈黙の春』 山本晶子

偶然に支配されたる命にて事故にも遭わず六十四となる

夫よりは鉄をもらいし誕生日、アスパラ・モロヘイヤ・オクラを播けり

読み終えし『沈黙の春』発癌物質の海にただよう地球族われら

俳句



4月30日(土) 夜須町 手結岬・真行寺

合田青幹

磯呑み磯に砕け卵波来る 逝く春や手結の名消ゆること惜しむ

吉本伸秋

蛸壺のうづ高き路地葛若葉 断崖にせり出し放つ海桐の香

中内英明

澄み鳴きて磯鴨や四月尽 姫うつぎ出船に軋む船溜り

中内みち代

鳥籠籠に林をつくり漁準備 花桐風の死角に香るかな

小笠原さちを

灯台の白亜を囲む花桐 浜豌豆真砂の丘のなだらかに

5月21日(土) 宇佐・青龍寺

合田青幹

老鷲の相呼心せる寺領かな 眞白鐘樓眞つ黒とは涼し

中内英明

大半夏武蔵鏡の木下閣 その先は南風吹く海や奥の院

中内みち代

鶯の声転がり来沼静かな 万縁に鎮もるお屋根青龍寺

小笠原さちを

急燈やまつ打ち仰ぐ花空木 堂々と若竹天に突き抜けし



川柳 小澤 幸泉

一路集 ③

一 生きる・平和・くらしー 気がつけば妻が戻って子が帰る 捨てられた鉢を集めて庭菜園 飢え立ち上れ二十五条握りしめ ヤンキーを迎える母の手が暖い 汗かき恥かき人生まだつづく



AKIO

今、高教組は

高教組執行委員長 倉橋楠雄

雨間の田んぼを低空飛行のツバメが飛び交っています。空梅雨で水不足が心配されています。いまは梅雨が、ここに来て梅雨本番となり、今度は昨年の豪雨災害の記憶がよみがえり、全く人間とは勝手な生き物だと複雑な気分になります。さて、学校現場では今年から「新しい人事評価制度」が全県試行となりました。(それに伴い昭和三十三年に導入された「勤務評定」は廃止になりました)

この制度導入にあたって、大東文化大の浦野氏は留意すべき点として、三点を上げています。第一は評価とは何かということ、第二に議論すること。その際、「子どもたちが主人公」の「土佐の教育改革」の推進と結びつけて議論をすすめること。第二に教職員の方量の向上を考える場合、「教師といえども失敗が許されない」ということはあり得ない。失敗してこそ教師が成長していく「バネ」であることとを大切にすること。第三は子どもも親も参加できる学校

読書会

八十八回記念

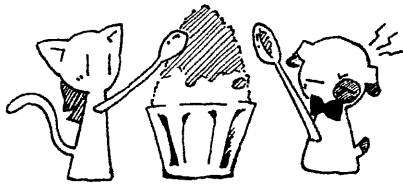
六月十六日、定例の読書会開かる。参加者七名。取り上げた図書はドクトルマンボウ先生の長編小説「樵家の人びと」と不破さんの五月十二日の講話「靖国神社問題」を合わせて論議した。最後に、終戦六十周年の夏を迎えたので、その回顧談も交流した。

今回の例会は八十八回目、数字の上では「米寿」と関係が深い。それに今年退職した樋口氏が入会したことも重なって閉会後、記念の宴席を待った。この集まりの初回は九〇年の九月で参加者は浜田豊、中田、坪井の三名。二回目の参加者は、崎山、田所、坪井の三名。それから連続八十八回、この日を迎えた。

次回は八月十一日。岩波新書の「靖国神社」と小説「モリ」先生との火曜日「がテキ」に選ばれた。しっかりと勉強して参加することにしよう。

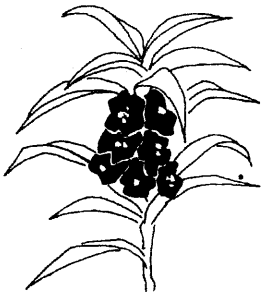
六十年前の八・一五
終戦から六十年。あの八月

づくりと結んだ「評価」を事実として各学校・地域でつくりだし、校長と教師の対一の狭い評価の枠組みをの乗り越え、全ての教職員と父母の集団的な学校づくりのなかに包み込む発想と、とりくみが大事だと指摘しています。試行が始まり、現場では「目標シート」の提出を促され、管理職との面談が実行されています。このなかで、多くの職場では管理職から「具体的な数値目標を設定するよう」にとの発言があり、我々の主張する「学校づくりの観点から制度を教育的に運用する」目的から外れた運用が目立ちます。



十五日を思い起こしてみよう。夏休みを終えて焼けただれた高知駅を学徒動員の地に向けて出発したのがこの日であった。池田駅で重大放送があるとのことを車中で聞かされた。放送はブラットホームのスピーカーから流されたがよく聞きとれなかった。やがて車中に終戦の船歌が流せられたとの情報が広まっていた。まさに進退谷まっただが、とにかく動員地の兵庫の土山に向いてみた。学校側の指示は九月開校とのことで、再び帰高の途にいたが途中は大混雑、帰りつづくのに四日を要した。途中で乗り換えた駅は加古川、姫路、岡山、宇野、高松、琴平、池田であったと思う。特に苦労したのは宇高の連絡船。復員兵優先で一般人の乗船は一回に数十人がやっと。結局あの橋樑で三晩近く立ち続け夜を明かした。それから数年、飢饉地獄に苦しめられた。なにはともあれ、戦争は二度と御免こうむる。平和憲法を守り抜こう。

旅



北欧ピクアップ 長滝正雄
バンコクから9時間ほどで朝スツックホルム。5/10。BアンドBをようやく探し当ててから街へ。やはりノーベル賞授与式のシティホールから。川縁のレンガ作りの大きな会館。「ここかア」となぜか感動する。あいにくこの日の入館はノー。少し冷たい風に吹かれて近くにある有名なガムラスタンへ足を向ける。中世商業街区である。しかし私はこの辺りから悪寒がし出した。夕べの飛行機の冷房と時差が応えたようだ。まだ日は高かったが旧市街の風情もそこそこ宿に引き返す。すごく心細かった。宿ではシャワーもバスで二段ベッドに潜り込んだ。これが良かった。オスロ2日目の朝は小雨まじりの冷たい風が吹いた。そんな中を港でかなり待たされて巡回遊覧船でヴァイキング館のある島に渡った。まるで別荘のようなこじんまりした家や庭の続く静かな道を歩く。白い花の庭木が多い。ヴァイキング館はすぐに見つかった。薄暗い建物の中に4隻ほどの半壊以上の帆船が置かれていた。幅5m長さ20m足らずか。これで大西洋も渡ったとか。出船や凱旋の時の賑わいが偲ばれる。しかし倭寇の国からもたつた1日足らず飛行機に乗ればここまで来るのだ。現代文明にも驚く。
午後は雨も上がったので元気を取り直して市電でビーグラン公園へ行った。ムンク美術館は休館で。ここは不思議な公園で橋の欄干に男子のシンボル丸出しの銅像が様々な姿態で並んでいる。中央部にあるタワーも無数の男女が絡み合った石像である。妙に力強い。それが若者から体型の緩んだ老人世代のカップルまで。つまり人生を教えているのだろうか。傍さとか慈しみとか。さらに見事なのはこの公園の広さと緑の美しさである。草地と森と土の道。人は歩き、走り、座り、自転車やローラースケートで飛ばす。私もついそこら歩き出す。小鳥が元気。電車もバスもバンもコーラも物皆高い北欧でここはなぜか入場無料。追伸、ククサのヘルシンキもお勧め。

素戔嗚尊日録

坪井 幹之

四月に入ってウォーキング「鉄塔めぐり」を開始した。市周辺では送電線のルートが錯綜している。筆山、下知、新改、天神、須崎、高知幹線、孕等に分類されている。
二万五千分の一の地形図を頼りにルートを通ってみるが、なかなか見当がつかない。地図には送電線が引かれているが、目標である鉄塔の所在地は明示されていないので、近い作業路を勘で捜すことになる。途中で電力会社の表示に出会うとほっとする。専用の路に入れば先ず迷うことはない。道標が消えているところもあるが、第六感を働かせて道をたどる。林の間に屹立する鉄塔を見出すと心が躍る。
今までに二〇回ほど鉄塔探索の山歩きをこなした。これからの記事で、コースのいくつかを紹介してみよう。

夏季学習会の案内

恒例の夏季学習会を左記の日程で行います。

日時 8月26日(金) 午後3時

場所 高知城ホール

講演内容 1「介護保険制度の現状と課題」

講師 小松佳子

(医療生協ケースワーカー)

2「高知県山岳連盟 中国未踏峰・冷龍嶺登山隊初登頂報告」

報告者 登山隊長 福永信之

隊員 中村正博

学習会終了後、懇親会も準備していますので、多数の参加をお待ちしています。



訃報

会員の坂本スエ子さんが3月に逝去されました。
和田幸男さんが5月4日に逝去されました。
慎んでご冥福をお祈りします。

高知大空襲

市川まさ

終戦も間近に迫った一九四五年七月四日未明、高知市は米機の空襲により一夜にして全滅に近い被害を受けた。

当時、師範学校の教員だった私は、動員先の半田市から帰校したばかりで、居残り生徒の面倒を見ていた。下宿でようやく眠りについた直後、警報が鳴り響いた。「学校へ駆けつけねば」との思いが頭をよぎったが、下宿の女主人にせかされて防空壕へ駆け込んだ。

しかし、そこも危険だと西の天満宮をめざして外へ出、ひっきりなしに落ちて来る焼夷弾を避けながら川上へ進むうち、一発が背後に落ちスラックスに燃え移った。とつさに座布団で抑え込んだが火は容易に消えず、夢中で走るうち堤防下の水田に転げ落ち、火は消えた。

対岸の市の中心部はあかあかと炎が渦を巻き上げ、爆音・炸裂音・風の音・サイレンがとどろき、まさにこの世の終わりと、稲の間に身を横たえたまま、呆然と眺めていた。夜が白む頃、敵機は去った。救急袋から軟膏を出して手当てをし救護所へ向かう途中、一人の生徒に出会い、学校は全焼したけれど生徒は全員無事だったことを知りほっとした。

一週間後、リヤカーに乗せられて30キロはなれた故郷美良布へ一日がかりで帰った。遠い大野見村から、叔父が火傷に効くという「亜鉛華でんぷん」と「なたね油」

をリュックで背負ってはるばる持つてきてくれた。右脚の火傷はひどく醜い傷跡が残り、まだ20才を過ぎたばかりの身には心の重い日が続いた。

戦争当時のことを語るのはとてもよほど親しい人を除いては抵抗があった。被爆者の方々のそつとしておいてほしいといわれる気持ちもわかるし、それを乗り越えて反核平和運動に参加する方々に共感を覚えるのも事実だ。戦争で傷ついた経験を通して、わたしは平和を守る方がいいか大切に思う。この思いが平和を願うわたしの行動を支える柱になっている。

子や孫を・教え子たちをわたしのような目にあわせたくない—そのためにわたしたしなりの努力をし、皆と力をあわせようと日々を生きている。(家庭教育研究者連盟編「セーラー服が消えた」より抜粋)



旅の予告

次の旅を計画中です。詳細は9月のニュースでお知らせします。

昼食会 期日 本年10月中旬

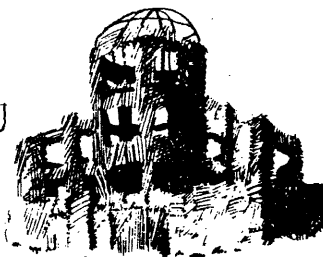
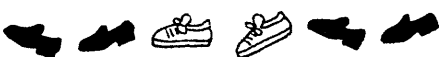
行き先 中土佐町久礼

黒潮本陣

親睦旅行 期日本年11月中旬

行き先 白浜温泉

南方熊楠記念館他



近況雑感

おーいおーいおーいおーい

煙の雑草を 溝淵 乃婦
煙の雑草を引いていると、なんと私らあばっかり引くがよ」と聞き慣れた声がします。「うん、まあねえ」その答えがどうも苦手です。これを称して「草引き哲子」と友人に言いますが、わかったよ、うな、わからんような顔です。おかげさまで、哲学、いや草引きの時間を長く持てるようになり、大いに楽しんでます。



相撲ニニ知識 (六十五)

林 勤



大相撲名古屋場所の話題あれこれ
いま開催中の大相撲名古屋場所(正式には七月場所と言ふ)は昭和三十三年に開設され、これによつて年六場所制となった。それから四十七年、名古屋場所の話題の幾つかをひらいてみる。

当初は名古屋市立金山山体育館(昭和四十年から県立愛知県体育館に移る)で、冷房設備がなく、館内に氷柱を立て、一日に二回、四ヶ所から酸素を放出し、支度部屋は扇風機という状態で、その暑さから「南洋場所」と言われた。

最初の場所では、土俵の鬼と言われた若乃花が、翌年は名人栃錦が優勝している。所謂「栃若時代」である。栃錦は初の全勝で九回目の優勝を飾ったが、十四日目に優勝を決めたので、東京の父親は千秋楽の優勝祝賀会に出るため家を出たが、その途端、オート三輪にはねられ深夜一時に亡くなった。それから五十年近くにもなり、こんなことを覚えていたファンも少なくなつた。

この頃は個性のある力士が多く、土俵では館内の暑さを凌ぐ熱戦、好勝負が展開されファンを沸かせた時代である。館内の設備も、土俵上の熱気も今昔の感がある。

四十七年には、ハワイ出身・前頭四枚目高見山が十三勝二敗で優勝を遂げているが、これは初の外国人力士の優勝である。

四十八年は、関脇大受が十三勝二敗で史上初の三賞(殊勲・敢闘・技能)独占を遂げ、場所後大関に昇進した。

最も近い所では、今年ロシア出身の白霧山が新入幕を果たし、外国人力士では初、史上八組目の兄弟幕内力士(兄は露鵬)が誕生した。

名古屋場所開設初期を相撲史の流れの中で見ると、「栃若時代」が終り、間もなく「柏鵬時代」が到来する時代(人即ち名古屋場所の優勝は、三十三年若乃花、三十四年栃錦、三十五年若乃花、三十六年七年が大鵬である。栃錦、若乃花共にすべての場所の優勝が三十五年で終わっている。三十六年から十年間、大鵬・柏戸の「柏鵬時代」に入るVである。

機関誌「こうたいきょう」

原稿募集

26号

字数 2000字以内

〆切 2005年10月末日

近況ハガキは9月に送ります。

「こうたいきょう」編集委員会

戦後60年になりました。

あの暑かった8月15日

皆さんは どこで、

何をし、

何を感じたでしょう?

「こうたいきょう」26号は

それぞれの8月15日特集を

したいとおもいます。

多数の会員の8月15日を

集めましょう。

(原稿紙2枚以内で)

